



—淡路の情報いっぱい！生活創造しんぶん—

発行日 2013年1月1日

月刊

# ポケットあわじ

## 島のあの頃 電車・船・人

### ゆったりした気分をもう一度



下り55号列車(尾い101191) — 宇山〜下加茂 — (41.9.30. PM3:30)

### さよなら、ありがとう、淡路鉄道

時代や年代、性別を問わずファンの多い鉄道。撮り鉄やら、音鉄などという言葉もあり、その人気は広く深く限りがありません。南あわじ市松帆にお住まいの山口勉さん(63才)もその一人。中学生だった山口さんは毎日淡路交通の電車に乗って通学するうちに大の鉄道ファンに。応援隊が、懐かしい淡路鉄道の話を聞いてきました。

たり、休みの日、宇山の車庫へもぐりこんで運転士の真似をしたり(秘)。電車にはスピードメーターは唯一両だけついてたけど動いてなかったんや。一切勤で時速60km位で走っとった。最終電車が松田の鉄橋を渡る時、タイホン(警笛)や鉄橋のガタンガタンっていう音が松帆まで聞こえてたなあ。

一番心に残っているのは昭和41年の淡路鉄道廃止の時の最終電車に乗った時やなあ。午後3時30分発の最終電車にどうしても乗りたくて午後の運動会の練習サボって乗りに行った。たくさんの人とバンドの蛍の光の音楽に送られて、電車が出発した時は涙がとまらなかった。

昭和40年の水害で、大きな被害を受けた事や、道路事情がよくなって車が普及した事で電車は41年に廃止になったけど、南海電車の台車に阪神電車の車体を載せたユニークな淡路鉄道がなつかしいなあ。」



あわじの電車はかせ 山口 勉さん

「昔、松帆小学校が3年生以上で洲本に遠足に行く時、普段は2両編成の電車を4両編成にして貸切で行ったんや。そしたら変電所の容量不足で、長田の坂で大方止りかけやった。このころは道路が整備されてなかったから、バスはまだなくて、たいてい電車に乗っていったなあ。運賃は洲本〜福良間で120円。洲本まで電車に乗ってそこから船で大阪や神戸に行ったんや。朝は2両編成の電車がギューギュー詰め。帰りはいつも運転席の近くに座って、運転士さんに「もっとスピードだしてよ。」って言う

どこまでも続くレールや旅そのものにも魅力を感じて鉄道を愛してやまない山口さんのお話でした。夢はアジア、ヨーロッパでの乗車体験をさらに増やすこと、アメリカ大陸横断鉄道に乗ることとか。応援隊：村上 紀代美

今月の特集 島のあの頃 電車・船・人  
ゆったりした気分をもう一度

- P.1 ・あわじの電車はかせ 山口 勉さん
- P.2 ・電車通園、汽車通学の思い出・八幡丸
- P.3 ・播淡汽船・大阪湾フェリー

もくじ

- P.4 島のあの頃写真館  
薬剤師の三田さんが贈る笑顔と幸せ応援コーナー 肝臓
- P.5 この季節のちょっと寄り道 開鏡山 観音寺の湯立てて神事 おじゅっさんのありがた〜いお話 “廻り弁天さん”
- P.6 淡路文化会館・淡路消費生活センターからのお知らせ
- P.7.8 淡路の文化活動・イベント情報

### 電車通園・汽車通学の思い出



掃守駅 長田峠

写真提供  
淡路交通(株)



汽車通学をしていた  
たかゆき  
**山口 貴千**さん

## みんなで汽車を押して超えた長田の坂

昭和18年から汽車通学をしていた南あわじ市八木の山口 貴千さん(81才)が当時のことを楽しく教えてくださいました。山口さんは、毎朝6時の市村駅発学生専用列車に乗って2時間半もかけて通学していたそうです。

### 保育園へ電車通園してました。

約50年前、私がまだ保育園児の頃、田園が広がるその先の土手を電車が走っていました。電車は家の近くを走っているのに、一番近い掃守駅までは約1.5キロ離れていました。毎日歩いて掃守駅まで行き、掃守と倭文地区の保育園児と小学生と一緒に電車で一駅区間だけ乗っておのころ駅まで通っていました。電車で一番記憶に残っているのは、鉄橋を渡る時、電車が川に落ちないか、いつも不安な気持ちで乗っていた事です。枕木とレールだけのか細い橋の為、川を渡っている時、窓から下を覗くと橋は見えず、川底だけしか見えませんでした。電車で通ったのは半年程で、廃線になり保育所のみみんなで花を飾ったお別れ電車を見送りました。

複列在住: 坂本 頼保



さよなら列車

「わしら軍人になって、はよ出世したかったさかい洲本中学へ行ったんやで。市村駅で汽車乗って、一本松駅・自凝島(おのころじま) 駅越えて掃守駅に着いたあ汽車に水や石炭補給しといて、最高地点(標高49.5m)の長田の駅に向けて汽車が坂登るんや。けど長田の坂の途中で汽車の蒸気が足らんようになってプッシューウゆうて汽車が止まるんや。ほたあ駅員がとんできてレールに砂しいて乗とる学生みなで電車押して長田の坂を越えるんや。長田の坂でトラブルがなんべんもあったさかい、汽車通学のものは遅刻にならんかったわ。2時間目が始まる頃に宇山駅に到着することもあったなあ。・・・けど上級生は、たいがいおとろしかつたで。1両目に上級生がそりきばって乗とってなあ、目えつけられた下級生は呼び出されて厳しいお仕置きされんのじゃ。戦後でみな気いたったんだあ」

乗車している学生たちがみんなで汽車を押して長田の坂を越えていた・・・古き良き時代のとてもいいお話ですね。でも、上級生が怖いのは今も当時も同じみたいですね。 川原 雅代

\*電車道の近くには〇〇飛行場があったので戦時中鉄道は軍事的用途にも使われていたそうです\*

### 第一八幡丸

八幡丸写真提供 浜口さん



富島⇄明石  
八幡丸



八幡丸模型(川西さん作製)



伝馬船

写真・資料提供 淡路市

明治の終わり頃、明石の人が淡路へ船を出していたのですが、なかなか淡路の人の都合に合わせてもらえないので、富島の浜口さん達4人で「八幡組」を立ちあげ、大正初期に運行させたのが八幡丸の始まりです。煙突には丸に大きく「八」の字マーク。主として郡家(夏2往復・冬1往復)、室津・育波・斗ノ内・富島・野島(夏5往復・冬4往復)で乗客・荷物(淡路から野菜、明石から魚など)を積み込んで



富島港  
第八八幡丸⑥ 第一八幡丸⑤

で運んでいました。港に棧橋のないところは、伝馬船(てんません)で沖の八幡丸まで乗客と荷物を送迎していたのですが、女性やお年寄りさん達4人で「八幡組」を立ちあげ、大正初期に運行させたのが八幡丸の始まりです。煙突には丸に大きく「八」の字マーク。主として郡家(夏2往復・冬1往復)、室津・育波・斗ノ内・富島・野島(夏5往復・冬4往復)で乗客・荷物(淡路から野菜、明石から魚など)を積み込んで

### のんびり・ゆったり船の旅

バスも通っていたのですが、荷物をたくさん持ち込める船をよく利用していました。船べりに腰かけて潮風を全身に受け、トントントン...というリズムカルなエンジンの音を聞きながらの約1時間。のんびりと世間話に

花を咲かせ、ゆったりとした気分を味わえました。最初は知らない人でも一緒に乗っているとだんだん打ち解けて話が弾み、下船する頃には以前からの友人のようになっていたものです。最近よく耳にするコミュニケーションの必要性を船のあった頃はそこで自然に身につけていたの

すね。“ゆとりのある時間”の大切さを今一度見直したいと感じました。そんなのんびりとした八幡丸も昭和44年3月以降は富島・明石間のみの運行となり、その後八幡丸操舵間短縮が望まれ昭和56年に引退しました。 応援隊: 廣岡ひろ子



美智子妃殿下も一目見たくて  
沿道から日の丸の旗ふったなあ。

昭和47年11月皇太子殿下ご夫妻が淡路島訪問

・島のあの頃写真館  
・薬剤師の三田さんが贈る 笑顔と幸せ応援コーナー



昭和49年新婚旅行に行くとき、五色のテープで見送ってもらいました。島外に就職する人などもこうして見送りましたよ。応援隊：田処



写真提供：田村ひろ子

皇太子ご夫妻を案内している宮司は、私の祖父です。 田村



㊦ 昭和初期の三輪車  
㊦ 80年前のお稚児さん

## 島のあの頃写真館

家族が集うお正月。古いアルバムを囲んで家族の歴史を紐解いてみませんか？

明治～昭和初期までの家族の写真です。託児園の子ども達(右下)は今90才ぐらいます。昭和初期の校舎・80年前のお稚児さんの写真が一押し！ 応援隊：田村

明治44年の家族写真



漁具の搬送汽船

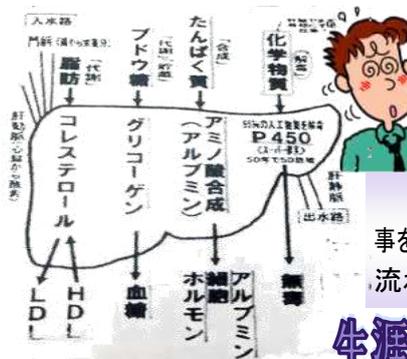


うわーっ！  
なつかしっ！  
約50年前の荷入れ



浦小学校（昭和13年）昭和3年中村託児園修了記念写真  
校庭に萁畑！？  
(中村託児園は、現塩尾保育所の前身)

## 生活習慣アドバイザー・薬剤師の三田さんが贈る元気200% 笑顔と幸せ応援コーナー



お酒を飲む機会が多いこの季節。あなたの肝臓は、大丈夫ですか？

### 人生の幸せは肝臓で決まる！



三田 雅一 先生

肝臓は、人体最大の臓器(1.5kg前後)で最も大切で忙しい臓器(300種類以上の仕事をしている)で無言の臓器と言われてます。1日に一升ビン1200本分の血液が流れ込んできて全ての栄養・毒の処理をしているところです。

### 生涯現役で元気のコツは、肝心要の肝臓を元気にすることです。

栄養は一旦肝臓に運ばれる。

上図の通り、腸から吸収された栄養は一旦肝臓に運ばれます。脂肪は、コレステロールに作られLDL-Cとして全身に運ばれます。ブドウ糖は、グリコーゲンとして貯蔵され、肝臓から出ていく時は一定の血糖として調節します。たんぱく質は、肝臓でアミノ酸合成をして体の細胞やホルモンなどを作ります。材料として使えるようにしています。

### 肝臓の最初の仕事は解毒



肝臓が一番最初にする仕事は解毒です。通常解毒酵素は、一種類の毒に対して、一種類の酵素が働くのですが、50年前に突然P450という酵素が肝臓に現れたのです。P450はなんとたった50年で50倍にも増加しています。着色料や保存料などの食品添加物・農業化学薬品など今まで人類が入れたことのない化学物質などがどんどん体に入り、それを解毒するのにP450が現れ50倍に増えざるを得なかったのです。今の肝臓は、解毒の仕事だけで目いっぱい悲鳴を上げている状態です。他の仕事ができなくなり、高コレステロール・糖尿・アトピー・ホルモンのアンバランスにならざるを得なくなりました。

## どうしたら、解毒力をアップできるのか？ 野菜料理を毎日5皿以上食べることで！



# ばんたんきせん 播淡汽船

道の駅あわじ 船長 西田さんが語る 40年前の思い出

昭和46年。高校生となった私は明石への通学が始まった。その唯一の交通機関は「播淡汽船」。当時通学定期は970円。津名へ通う仲間の通学費の数分の一で、明石の高校に行く事がある意味親孝行であった。

一日中、播淡汽船は客でにぎわっていた。特に朝夕は過密とも言える程大勢の人々が利用していた。一便遅れば遅刻。そのため船が離岸し始めても私たちは飛び乗ろうとした。船中での居場所確保には一苦労した。イス席や船底部屋はすでに人でいっぱい。2階や船底に通じる階段ですら二、三段ごとに人々は立ち、しかたなく私たち学生は船べりに腰掛け、海転落の危険など意に介さず、談笑しながら着岸までの30分を楽しんだ。

冬になると居場所確保はなおさら熾烈だった。早目に家を出て船底部屋へ。室内は脂っぽい臭いが立ち込め、人々の吸うたばこの煙と合間って気分が悪い。船は風でローリングしながら港を目指すが、客室に入れない人々は寒風の中階段や通路に立ち、波に足を洗われる事もしばしばであった。それでも思い返せばそれほど苦痛感は無かった。大きな波にキャーキャー言いながらも私たちは船に身を任せ、顔は笑っていた。

このように高校生活の3年間、私の朝は今から始まる



一日に意気込み、そして夕はふるさと淡路の土を踏んだことに安堵し、棧橋に降り立つ事を繰り返した。寄稿 岩屋在住  
西田 利行



昭和36年(1961)に淡路から泉州や和歌山方面への最短距離、大阪の深日港と洲本の炬口港を結ぶ海の航路として開設されたのですが、明石海峡大橋が完成して利用が激減したため、惜しまれながら平成19年(2007)1月31日をもって45年間の歴史に幕を閉じました。その間会社名や発着港が変更しましたが、大阪湾フェリーの愛称で淡路島民に親しまれました。その大阪湾フェリーに昭和42年から平成17年まで40年間乗船していた洲本市炬口にお住まいの山下勝さん(63才)に当時の思い出を語っていただきました。

元船長の山下 勝さんが語る

# 大阪湾フェリー



元大阪湾フェリー船長  
山下 勝さん

最初は船員として入社し、それから次々と免許を取って、退職する時は船長として乗船していました。長い間勤めた航路がなくなるのはとても寂しく辛かったが、時代の流れでしかたがないのかなとも思いました。

台風の時などは岸和田港へ避難し、海の荒れが収まるのを待ったものです。最初の船は「みくま」と「みさき」その後「いざなぎ」いう船が就航しました。前後にプロペラがあって横へも進める「いざなぎ」は当時、世界でも珍しい船でした。炬口港が狭いのでそのような船が作られました。

お客さんの多い盆や正月などは、乗船待ちの時間が8時間から10時間ということもありました。今では懐かしい思い出です。

この大阪湾フェリーができたのは、私が小学6年生の時でした。炬口港まで見に行きましたが、すごく大きい船でびっくりしたのをよく覚えています。またこの航路がなくなるまで何回となく利用しました。応援隊：田処 吉久



# 湯立て神事

この季節のちょっと寄り道

## 岩屋 開鏡山 観音寺



1月20日(日)

水仙が咲きみだれ空気が冷たく肌に刺さるように感じる1月の第3日曜日になると毎年淡路市岩屋の開鏡山観音寺で「湯立てまつり」が行なわれます。

ほら貝を吹く音が、まわりに響き、矢が四方へ八本放たれます。般若心経の読経の後、煮えたぎったお湯の中に、白装束の行者が笹の葉を使って、巻上げると湯滴が空に舞い水蒸気がまわりを白くします。あたり一面すごい湯気、熱いしぶきが飛んできます。

400年の歴史をもつ、この祭りは山伏の修行から生

まれたもので、修験道の

行者が太く束ねた笹の葉を、大釜の煮え立つ湯につけ、その湯を気合いもろとも、その身に浴びるといものです。笹の葉によって釜から舞い上げられた湯滴は参拝者にも、飛び散りかかります。この湯がかかると五穀豊穡・家内安全で暮らせるという言い伝えがあり、毎年たくさんの参詣者で賑わいます。祭礼に使われた笹の葉は家の玄関に飾ると一年間無病息災になるそうです。

応援隊:竹代 結

### 廻り弁天さん



53年前の廻り弁天の様子

も淡路の三大祭として受け継がれていきます。

弁財天は、知恵に優れ豊かな財福の神ですので一度お参りをしていたいただき、新年のたくさん福を授かってください。合掌

応援隊 竹原 祐乘

慈眼寺 南あわじ市福良

TEL 〇七九九・五二・〇〇七六

### おじゅっさんの ありがた〜いお話し



『廻り弁天さん』  
淡路巡遷弁財天は「廻り弁天さん」とよばれて、三百年間親しまれ人々の厚い信仰が寄せられています。

この度、佐野八淨寺から五十二年ぶりに福良慈眼寺にお迎えすることになり、昨年十二月六日には八淨寺に白装束の若い衆がお迎えに参り「弁天さんじゃーチヨウサー！」の掛け声で練りまわり、その後福良の街を練り歩き、夕方三味線の音とともに、慈眼寺本堂に迎えられました。七日は奉迎大祭を盛大に執り行い、平日にも関わらず溢れんばかりの人々で賑わいました。

淡路巡遷弁財天は江戸時代の初期、淡路市佐野の目の不自由な城貴代が、高野山から妙音弁財天を祭祀したのが始まりです。今



### 今後の予定

1月7日(月)	4月21日(日)	7月7日(日)	12月5日(木)
初弁天大祭	春季大祭	夏季大祭	奉送大祭 お別れ感謝祭
	柴燈護摩・稚児行列	全淡奉大会	奉送弁天大祭法要

★淡路文化会館からのお知らせ★

# 「いざなぎ学園」のご案内 ※平成25年度募集は1/9より!

## 「いざなぎ学園」オープンキャンパス

日時：1月9日（水）・23日（水）  
2月6日（水）  
9：30～15：00

場所：淡路文化会館 講堂  
内容：教養講座、サークル活動、  
実技実習講座

参加費：無料

問い合わせ：0799-85-1391  
(淡路文化会館)

## 公開講座 淡路ふるさと再発見 ～吉事記と淡路島～

日時：1月18日（金） 9:00～15:30

内容：史跡探訪（絵島、五斗長垣内遺跡等）

参加費：1500円

その他：要申込（先着順）、1/11（金）締切

申込先：0799-85-1391（淡路文化会館）



古代鍛冶体験



風光明媚な絵島

★淡路消費生活センターからのお知らせ★

### 食の安心安全について学ぶ!

# HACCP学習バスツアー参加者募集!!

ハサップ



兵庫県食品衛生管理プログラム認定施設(県版HACCP認定施設)等を見学し、食品の安全性や衛生管理などを学んで、品質も考慮して商品を選択できる「かしこい消費者」を目指しましょう。

日時：平成25年2月21日（木） 8:00～16:30（雨天決行）

見学施設：①株式会社神戸ヤクルト工場（神戸市西区）  
②ヤマサ蒲鉾株式会社（姫路市夢前町）

参加費：無料（ただし、昼食は各自負担となります。）

募集定員：40名（先着順です。定員に達した時点で締め切ります。）

集合場所：洲本総合庁舎（洲本市塩屋2-4-5）＜詳細は申込締切後に参加者の方へ通知します。＞  
※解散場所も同じです。

申込方法：申込用紙に必要事項をご記入の上、平成25年1月31日（木）までに  
下記申込先あてに郵送またはFAXでお申し込みください。

申込み・問合せ先：兵庫県淡路消費生活センター  
〒656-0021 洲本市塩屋2-4-5  
TEL:0799-26-3360 FAX:0799-26-3090

兵庫県淡路消費生活センター 商品や契約についてお気軽にご相談ください。

◇消費生活相談・多重債務相談 電話0799-23-0993

9:00～12:00 13:00～16:30（土日祝日・年末年始は除く）（電話受付）



イベント・インフォメーション

所	イベント	日時・会場	料金・問合せ先
<b>淡路島</b> <b>国営明石海峡公園</b> 〒656-2307 淡路市南鶴崎8-10 TEL 0799-72-2000 FAX 0799-72-2100	あわジオフェスティバル	～1/14 (月・祝) 12/31・1/1は休園	イベントにより異なる ※別途入園料・駐車料金必要
	季節のクラフト遊び	1/19 (土)～2/24 (日) の期間中で土・日・祝日	材料代 200円～ ※別途入園料・駐車料金必要
<b>兵庫県立</b> <b>淡路夢舞台温室</b> <b>「奇跡の星の植物館」</b> 〒656-2306 淡路市夢舞台4 TEL 0799-74-1200 FAX 0799-74-1201 10:00～18:00 (最終入館17:30) ★年末年始も営業中！	クリスマス フラワーショー2012 -世界でたった一つの ホワイトクリスマス-	～1/14 (月・祝)	入館料 大人600円、 65歳以上300円、 高校生300円
	ニューイヤーイベント ☆紅白まんじゅうプレゼント	1/2 (土) 13:00～	参加費無料 ※別途入館料必要 ※先着100名
	特別展 淡路夢舞台ラン展2013 -華麗なる蘭の饗宴-	1/19 (土)～3/10 (日)	入館料 大人1200円、 65歳以上600円、 高校生600円、 中学生以下無料 ※前売り券1/18まで販売中！
<b>洲本市文化体育館</b> 〒656-0021 洲本市塩屋1-1-17 TEL 0799-25-3321 FAX 0799-25-3325	平成24年度 「YU・らいふサポート事業」 兵庫県立あわじ特別支援学校 校外作品展	1/19 (土)～1/20 (日) 10:00～18:00 ※最終日は15:00まで 会議室1A-3	無料 【問】0799-22-1766 (県立あわじ特別支援学校)
	Meet the Music 10 音楽との出会い ピアノとともに	1/20 (日) 開場13:30 開演14:00 文化ホール 「しばえもん座」	大人1000円(当日1500円)、 3歳～高校生500円 【問】0799-25-3321 (文化体育館)
	NHKラジオ公開録音 「上方演芸会」	1/25 (金) 開場18:00 開演18:30 文化ホール 「しばえもん座」	無料 ※要申込(申込方法はお問い合わせください。締切1/9) 【問】0799-25-3321 (文化体育館)
<b>洲本市</b> <b>市民交流センター</b> 〒656-0054 洲本市宇原1788-1 TEL 0799-24-4450 FAX 0799-24-4452	第35回 淡路くらしのひろば展 「講演及び活動報告」	1/26 (土) 13:30～16:00 ビバホール	入場無料 【問】0799-26-3360 (淡路消費生活センター)
<b>(財)淡路島</b> <b>くにうみ協会</b> 〒656-0022 洲本市海岸通り1-11-1 TEL 0799-24-2001 FAX 0799-25-2521	冬咲きチューリップショー	1/19 (土)～2月中旬 洲本市民広場、 なないろ館(福良) ※1/19 10:30～ オープニング セレモニー(洲本市民広場)	無料 【問】0799-24-2001 (淡路島くにうみ協会)
	第5回淡路島くにうみ講座	1/27 (日) 14:00～16:00 伊弉諾神宮及び 淡路市ふるさとセンター	

ギャラリー・インフォメーション

所	イベント	日時・会場	料金等
<b>淡路文化会館</b> 〒656-1521 淡路市多賀600 TEL 0799-85-1391 FAX 0799-85-0400	木彫わたし流2012	~1/6 (日) 9:00~17:00 12/29~ 1/3は休館 ※県民ギャラリー	鑑賞無料
	淡路島の伝統芸能と 文化のパネル展	1/4 (金) ~1/6 (日) 9:00~17:00 ※展示室	鑑賞無料
	第23回 淡路市中学校合同美術部展	1/8 (火) ~1/20 (日) 9:00~17:00 ※展示室、県民ギャラリー	鑑賞無料
	第31回選抜書友展	1/22 (火) ~2/2 (土) 9:00~17:00 ※展示室、県民ギャラリー	鑑賞無料
<b>洲本市民工房</b> 〒656-0021 洲本市塩屋1-1-17 TEL 0799-22-3322 FAX 同上	兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科 実践演習企画展 「あわじとイノシシ」	1/12 (土) ~1/14 (月) 9:00~19:00	鑑賞無料
<b>洲本市 市民交流センター</b> 〒656-0054 洲本市宇原1788-1 TEL 0799-24-4450 FAX 0799-24-4452	洲本市公私立幼稚園幼児画展	1/6 (日) ~1/27 (日) 9:00~21:00 月曜休館 ※7-ルキギャラリー	鑑賞無料
<b>南あわじ市 滝川記念美術館 玉青館</b> 〒656-0314 南あわじ市松帆西路1137-1 TEL 0799-36-2314 FAX 0799-36-5408	~生誕150年記念~ 田中正平展	~1/14 (月・祝) 9:00~17:00 入館は16:30まで 月曜休館 (1/14開館、翌 日休館) 12/28~1/3休館	大人300円 高大生200円 小中生100円 ※小中生は「ココロン カード」「のびのびパ スポート」利用可 【問】0799-36-2314 (玉青館)
	平成24年度館蔵品展Ⅲ	1/18 (金) ~3月下旬 9:00~17:00 入館は16:30まで 月曜休館	

編集だより



淡路島に電車が走っていたあの頃があり、船(フェリー・高速艇・播但汽船)に乗らないと島から出られなかったあの頃があり・・・と懐かしく思い出されます。(当然私は電車のこと知らないですよ!!)出かけようとするとき必ず乗っていた船、用事を終えて帰ってくる時に船に乗り、船から降りると「あー帰ってきたあ!!」とホッとしていたことを思い出しました。乗船中には友達とのおしゃべりに花が咲き、心地よい睡眠時間があったりと・・・人それぞれに活用していましたよね。橋がかかって、スピーディーで便利になり、天候も気にせず出かけられる今、ゆったりとした時間が流れていたあの頃が貴重な時間だったと思えてなりません。

応援隊:中山千秋



「ポケットあわじ」は、毎月3,000部発行し、応援隊の手により、島内各市の庁舎・公民館・商業施設など約240カ所に無料配布しています。

淡路文化会館のホームページ【<http://www.eonet.ne.jp/~awaji-cc/>】でご覧になると、カラー版でお楽しみいただけます。

読者の皆さまからのお便り、まちの情報をお待ちしています。下記までお気軽にどうぞ!

(発行) 淡路生活創造応援隊  
淡路文化会館  
〒656-1521 淡路市多賀600  
TEL 0799-85-1391  
E-mail a-pocket@hyogo-ikigai.jp

